

平成26年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京都市立養徳小学)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見
1 確かな学力	おもいや考えを表現する力	掲示板での言葉の広場や各教科での言語活動のさらなる充実	話す・聞く話型の統一。ジョイントプログラム等の結果	全市平均より2~3ポイント上回った。	教職員の「めあてをはっきりさせて授業をすること」の指導が評価となって表れ、90%の児童が「勉強はよく分かる」、83%の保護者が「学習内容を理解している」と回答があった。 毎朝の読書活動で本に親しみ、静かに読書する児童に育った。	「よく分かる板書をするこ」と「ノート指導」をさらに進め、基礎基本の定着を図ると共に家庭学習の大切さを子どもたちと話し合ったり、情報を発信したりしていく。 考え方や思いを表現できる子の育成に向け、「話の聞き方」や「発表の仕方」等、聞く話す力を育していく。	・子どもが変わってきた。 ・学校の教育が良かった。 ・子どもたちも元気に学校に行っている。
	読書活動の充実	朝読書の充実 読み聞かせボランティア 読書100冊の定着	・朝読書や読み聞かせを通して読書の楽しさを味わっている。	「できている」児童・保護者の割合は82%(前期比-4ポイント)			
	家庭学習の習慣化	学校便り等による啓発	・時間を決めて勉強をしている。	「そう思う」児童・保護者の割合は66%(前期比+1ポイント)			
2 豊かな心	人権教育の充実	「ともだちの日」の取組	「ともだちの日」の振り返り。 ・仲間を大切にする気持ちが育っている。	「そう思う」児童・保護者の割合は94%(前期比+3ポイント)	保護者の「仲間を大切にする気持ちが育っている」項目で、重要度も実現度も一番高いポイントであった。 ソーシャルスキルトレーニングを継続的に行ってきた結果、情操を育むことにつながっている。	「指導しきる」指導を続け規範意識の向上にさらなる努力を行う。 自尊感情を高め自己肯定感を持たせることにより、自他を大切にする子の育成に努める。 「伝統・文化を大切にする心を育てる」教育をさらに進めていく。	・先生方も子どもたちも来校者に挨拶をしている姿をよく見かける。挨拶をする子が増えた。 ・子どもたちにルールを守らせるように厳しくやっていただければ良い。
	規範意識の育成	学校のきまりの確認・徹底	・学校や学級のきまりを守っている。	「できている」児童・保護者の割合は81%(前期比同ポイント)			
3 健やかな体	豊かな心の育成	ソーシャルスキルトレーニングの活用	・友達や家族が悲しくなるようなひどい言葉遣いをしないように気をつけている。	「そう思う」児童・保護者の割合は87%(前期比+2ポイント)	朝食の大事さが定着してきたが、まだ数人朝ごはんを食べずに登校してきている児童がいる。 冬時間になり生活時間がどうしても遅くなる傾向にある。	引き続き朝食・基本的な生活習慣の大切さを学校便り・保健便り等で家庭に呼びかけていく。 マラソン大会などで体力向上を目指している。	・朝食を取れない・取らないのは良くない。 ・世の中の虐待に注意を払っていきたい。隣・近所で見守っていく。
	体力向上	全校マラソンの取組 部活動の推奨	業間マラソンの実施。 ・児童の外遊び・部活動を推進すること。	「できている」教職員の割合は79%(前期比+1ポイント)			
4 独自の取組	安全教育・安全管理	セーフスクール指定校	・計画的な安全教育を行い、児童自ら考え判断して安全に行動できる力を育てる。(教職員)	「できている」教職員の割合は94%(前期比+10ポイント)	文科省のセーフスクールの指定を受けて2年目、緊急地震速報装置を使っての避難訓練を年9回実施し、安全を意識する児童に育った。 小中連携として中学校からの出前授業、ふれあいコンサートなど実施してきた。	教職員の実地安全研修も年3回実施し、その成果を研究発表大会で発信することができた。 ホームページ上でも安全教育を発信し、学年からの更新頻度を上げた。	・ホームページでも安全の情報がアップされていて、子どもを安心して送り出せる。 ・スマートやIpadなどの使用に、家庭によっての温度差を感じられる。
	小中一貫教育の推進	3校合同研修会の実施	・小中一貫教育を推進する。(教職員)	「できている」教職員の割合は41%(前期比-9ポイント)			
	情報発信の充実	ホームページの更新	・学校ホームページが充実する。(教職員) ・よく分かる学校・学級だよりが発行されること。	「できている」教職員の割合は77%(前年比+3ポイント)			

4 総括・次年度の課題

- ・確かな学力の定着に向け、さらなる取組の充実を図り、教員の発問の仕方や授業構成等の改善を図っていく。
- ・学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、理解を深めていただくことができた。
- ・次年度に向けてアンケート項目に、学校教育目標・安全教育と関連したものを増やしていく。
- ・小中9年間の教育目標の具現化に向け、小中学校で評価項目やアンケート項目を統一し、経年変化を見ていけるようにしていきたい。